

平成28年度 学校評価報告書(総表)

平成 29年 6月30日

1 学校の概要			
学校名	筑波大学附属駒場中・高等学校	校長名	林 久喜
幼児・児童・生徒数	中学校368名 高等学校488名	学級数	中学校9 高等学校12
2 教育目標等			
① 学校教育目標	「自由闊達の校風のもと、挑戦し、創造し、貢献する生き方をめざす」の理念のもと、生徒自らが学ぶ態度の涵養に努め、国際社会で活躍できるトップリーダーの育成をめざす。		
② 学校経営方針	学校教育目標達成のため、本校の伝統的な全人教育を基盤に、第2期中期目標・中期計画で本学附属学校が定めた3つの拠点(「先導的教育拠点」「教師教育拠点」「国際教育拠点」)構想の成果を活かし、第3期中期目標・中期計画で掲げている「グローバル人材育成」と「インクルーシブ教育の推進」を積極的に実践する。先導的教育拠点として、SSH研究開発「豊かな教養と探究心あふれるグローバル・サイエンティストを育成する中高大院連携プログラムの研究開発」(第3期5年次)の成果を発信するとともに、次年度からの研究開発テーマを計画する。教師教育拠点として、本校の教育活動の発信と教員免許状更新講習の充実を図り、中等教育の発展に寄与する。国際教育拠点として、生徒の海外派遣や国内での国際交流を通して、国際社会で活躍できる人材の育成をめざす。		
③ 重点目標	<p>「国の拠点校」「地域のモデル校」として、本学附属学校の3拠点構想(先導的教育・教師教育・国際教育の拠点)の成果を活かし、本学との連携の下、以下の4プロジェクトを中心に全教職員で取り組んでいく。</p> <p>① 成長過程・生徒探究プロジェクト 本校の教育実践が生徒の成長過程に及ぼす影響について分析・考察し、その成果や課題について検証する。</p> <p>② 学習環境デザインプロジェクト 日々の教育実践や業務を支援する学習機会の立案・運営を通して本校の学習コミュニティの形成をめざす。</p> <p>③ 地域貢献・OB連携プロジェクト 地域貢献を継続するとともに、OBの人材活用の利便性を高めるためにデータベース化を図る。</p> <p>④ 国際交流研究開発プロジェクト グローバル人材の育成をめざした国際交流の調査と研究、国際教育拠点の観点での本学との連携を図る。</p>		
④ 前年度の成果と課題	<p>左の4つのプロジェクト①～④(前年度に設定)を中心に、生徒の人格形成、国の拠点校としての先導的な教育の実践、教育活動の発信と社会貢献、グローバルリーダー育成をめざした教育実践と国際交流などを全校体制で推進してきた。その成果と課題は以下の通りである。</p> <p>【成果】</p> <p>①塾と授業(行事)との関係等についての調査、心のケア・メンタルヘルスに関する調査、生活習慣・ヘモグロビン調査、情報端末と利用アプリケーション及び依存度等に関する調査、各学年の行事・総合学習・班等の生徒状況把握と指導ポイント収集を実施し、成長過程の把握と課題を明確にした。</p> <p>②総合的な学習の時間へのICT利活用、図書スペースの利活用、地域研究(総合的な学習)の教材化、互いの授業を研究し合うオープンクラスの実施を通して、学習コミュニティの形成をめざした。</p> <p>③本校関係者による「筑駒アカデミア」、目黒区教育委員会との連携講座、卒業生の講演を実施するとともに、進路懇談会や学年講演会などにおける招聘OBのデータを収集・整理し、教育成果の発信と社会貢献を図った。</p> <p>④生徒の相互交流(台中第一高級中学、釜山国際高校)、海外派遣生徒の受入事業(中国、台湾)、国内での国際交流(本学教員研修留学生との交流、イングリッシュルーム、TOSHIBA TOMODACHI ACADEMY、)を実施し、グローバルリーダー育成の環境を整えた。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3期SSH研究開発事業の終了に伴い、新たな研究課題の計画を策定する。 ・グローバル人材育成とインクルーシブ教育を推進するシステムの検討を進める。 		

3 重点目標達成についての総括的評価

先導的教育では、SSH研究開発の推進と生徒発表会や教員対象教育研究会の充実、理科課題研究や学校設定科目である「課題研究」の実践を進めた。今後の課題は、課題研究におけるカリキュラムや評価法の確立、アクティブラーニングの実践の促進、教育活動全般の外部発信の拡充などが挙げられる。教師教育や社会貢献では、教員免許状更新講習への協力と「附属学校実践演習」の実施、地域に貢献する「筑駒アカデミア」公開講演会と公開講座の実践と拡大を図った。今後の課題は、「筑駒アカデミア」の財政基盤の確立が挙げられる。国際教育に関しては、筑波大学教員研修留学生等との交流、海外生徒・教員訪問団の積極的受入れを実施するとともに、SSH事業海外編(台湾台中第一高級中学校での生徒研究交流会の実践など)や釜山国際高校との交流を実施し国際交流の積極的に行っている。以上の3拠点事業を推進する上で、脆弱な財政的基盤と老朽化した施設の改善が不可欠である。

4 来年度の学校課題

国立大学附属学校の新たな活用方策等で示された附属学校の存在意義である「国の拠点校」「地域のモデル校」を踏まえ、先導的教育・教師教育・国際教育の開発と推進、及び長期的視野に立った教育環境の改善を重点目標に定め、以下の4つのプロジェクト(1年次)を中心に全教職員で取り組んでいく。また、筑波大学附属学校の第三期中期目標・中期計画で掲げている「インクルーシブ教育」と「グローバル教育」を積極的に推進していく。

- ① 生徒の成長支援プロジェクト:本校の教育実践が生徒の成長過程に及ぼす影響について分析・考察し、その成果や課題について検証する。
- ② 教育活動支援プロジェクト:本校が日々実践している教育活動の内容を、教科横断的な視点で情報共有し、カリキュラムや学校行事等の配置の改善・充実が好循環する可能性を模索し、在り方を考える。
- ③ 「つながる」プロジェクト:「地域」、「他附属」、「OB」とつながることを目標としてさまざまな機会を開発し提供する。
- ④ 国際交流研究プロジェクト:グローバル人材の育成をめざした国際交流の調査と研究、国際教育拠点の観点での本学との連携を図る。

5 学校課題に向けての具体的な取り組み

以下に、4つのプロジェクト毎に具体的に取り組む内容を挙げる。(①～④は「4 来年度の課題」と同じ)

- ①通塾、心のケア・メンタルヘルス、生活習慣・身体、情報端末・利用アプリケーションや情報サービス、各学年の行事・総合学習の調査および検討
- ②新学習指導要領の施行に伴い、現在実践する教育活動の内容を、教科横断的な視点で情報共有し、カリキュラムや学校行事等の学校暦への配置の改善・充実が循環する可能性を模索し、本校の在り方を考える。
- ③筑駒アカデミア(講演会・公開講座)の実施、インクルーシブ教育(黒姫高原共同生活、スポーツ交流)の推進、招聘OBのリスト共有やOB活用の議論を行う。
- ④各種プログラムのシステム化・評価法の研究、国際交流デーの検討、恒常的プログラムの開発(総合学習・課外活動等)、他校の国際交流プログラム調査、中学生対象プログラムの研究を行う。